



藤沢記者クラブ各位

藤沢市民病院での個人情報の不適切な取扱いについて

横浜市立大学附属病院の医師が、臨床研究に係るメールを誤送信したことにより、協力病院である、藤沢市民病院泌尿器科の患者さん 175 件分の個人情報の漏えいがありました。

これを受けて、当院において、該当データについての院内調査を行ったところ、当該データを横浜市立大学附属病院に送信をする際、当院の医師が、個人情報の匿名化やパスワードロックなどの措置を行っていなかったことが判明しました。

患者さんやご家族、市民の皆さまに、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしましたこと、深くお詫びを申し上げます。

1 個人情報の漏えい数等

(1) 当院が保有する泌尿器科患者(初発の膀胱癌で手術をした方)の情報 175件

(2) 漏えいした個人情報

患者氏名、生年月日、性別、初回手術施行日、腫瘍性状、手術後の治療、再発の有無等

2 概要

7月29日(月)、横浜市立大学附属病院から連絡があり、7月24日(水)に横浜市立大学附属病院職員が宛名不明の2件のアドレスに対し、個人情報を含むメールの誤送信を行ったことの報告がありました。

なお、このメールには、医学的研究の目的で提供された、横浜市立大学協力病院20施設、3,411件の患者情報が添付されており、このうち、当院のデータは175件でした。

当院において行う医学的研究で、患者情報を院外に提供する場合には、個人情報の匿名化を図ることとしております。

今回のデータに関しても、当院の倫理委員会での審査の際には、データの提供方法として、「個人情報の匿名化」を行うこととなっておりました。しかしながら、院内調査の結果、実際のデータ提出時には、個人情報の匿名化を行わず作成しておりました。また、このデータのメールでの送信時に、「藤沢市民病院情報セキュリティポリシー」に基づく、パスワードロックなどの措置を行っていないことを確認しております。

3 原因

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」や「藤沢市民病院情報セキュリティポリシー」など、個人情報の取扱いに関するルールを理解しながら、個人情報の匿名化やパスワードロックなど、決められた対応を怠ったことが原因です。

4 再発防止策

今回の事件を受けて、7月31日の診療部会議で、個人情報の適正な管理について周知徹底を図りました。また、今後の取組として、各部門での会議や例年実施しているセキュリティ研修などを通じて、個人情報の管理に関する研修を実施するなど、再発防止に努めてまいります。

5 患者さんへの対応

今回の対象となった患者さんにつきましては、横浜市立大学附属病院と協議し、文書での謝罪を行うとともに、当院の外来及びホームページに「お詫び」を掲示し、対応を図ってまいります。

6 藤沢市民病院 常田 康夫（ときた やすお）病院長のコメント

このたびは、患者さんの個人情報について、当院の職員が不適切な取扱いを行ったことは、非常に重大なことと認識しており、責任を強く感じております。

当院の患者さんやご家族に対し、深くお詫び申し上げます。また、市民の皆様からの信頼を損ねたこと、誠に申し訳ございません。

今回の事案を契機として、個人情報保護の重要性について、改めて職員全体の認識を徹底させるとともに、今後このようなことのないよう、再発防止に努め、信頼回復に全力で取り組んでまいります。



*この資料に関する問い合わせ先

藤沢市民病院 病院総務課
担当： 齋藤 小泉
代表： 0466(25)3111
内線： 8427